

# 千南商事株式会社 の巻

(千葉市中央区)



千南商事のシンボルマークは、「未来に向かって成長するココロ、そしてモノを動かす無限大の可能性」を意味しています。

今年の冬は冬の強い気圧配置の日が多く、日本海側では記録的な大雪となり、「平成18年豪雪」に匹敵する勢いでした。関東でも気温の低い日と、さらに、例年よりも雨量が少なく乾燥した日が続いたためインフルエンザが全国各地で大流行し、体調を崩された方も多かったことでしょう。

読者の皆さまも暖かな春の到来を待ちわびる日々を過ごされたこと



▲石橋茂則社長(右)と石橋一寛常務

と思います。一方、春は「花粉症の季節」でもあります。今年ハスギ花粉の飛散が例年よりも少ないとの予報ですが、花粉症の方々は、花粉の飛散量のチェックをしたり、最近ではさまざまな予防用のグッズも販売されていますので、対策を万全にして春を満喫してください。

☆☆☆

前日には、都心でも今年2回目となる積雪となりましたが、幾分寒さが和らいだ3月1日、私たちは「事業所訪問」の第61回目として、千葉県の中心地である千葉市中央区に所在する千南商事株式会社(石橋茂則社長)にお邪魔することとなりました。

今回の目的地は、組合事務所から国道357号線を木更津方面に直進し、茂原街道入口交差点を左折したところに所在しています。

全般において同社独自の安全基準を設け、危険予知訓練や各種研修を頻繁に行うことで人材育成に積極的に取り組まれています。

長年培ってきたノウハウを生かし、「安全」と「効率」による輸送システムを提供することで、取引先との真のパートナーシップを構築されてこられたものと私たちは確信いたしました。

## 「運輸」と「アパレル」、 相互の事業で補完し合い 厳しい時代を乗り越える

続いて、私たちが特に関心を寄せていた「アパレル事業」についてお聞きしました。

「なぜ運送会社がアパレル?」と、逆に石橋社長に笑顔で問いかけられました。私たちがきっかけをお聞きすると、元々ご自身もアパレル事業に興味があったところに、約20年前に石橋社長のご友人のお誘いで始められたとのこと。

業務内容は、中国・江蘇省にある自社製造工場(蘇州ハンドウィーン服装有限公司・平成2年12月設立)でアパレルメーカー向けに同社独自で企画から試作・縫製まで一貫して生産するOEM商品(他社ブランド製品の製造)を生産し、



▲出発を待つ千南商事のトラック

近隣には、東京湾に面した千葉工業地域が広がり、製鉄所や火力発電所、石油コンビナートなどの大規模な工場が立地し、物流拠点として発展してきた地域です。

私たちが「こんにちは健保組合です!」と事務所を訪ねると従業員の方に迎えていただき、しばらくすると今回の取材に快くご協力をいただきました石橋常務に社長室へ案内され、執務中の石橋社長にも貴重な時間をちょうだいし、取材を始めることとなりました。石橋常務は、組合会議員ならびに保健事業を推進する健康管理事業等推進委員として、日頃より組合運営にご尽力をいただいております。

最初は社会保険全般にわたる話題でした。「医療保険・年金ともに、経済の低迷や雇用環境の変化、少子高齢化の進展により社会構造が大きく変化するなかで、将来にわたる給付と負担のバランスが保たれるか不安です」と石橋社長はおっしゃいました。

現在では、数十余りの協力外注加工企業と提携し、年間生産数量は初年度との比較で数倍に成長されましたが、軌道に乗るまでは決して順風満帆とはいかず、特に、外国での事業展開は、文化や価値観の違いにより失敗や苦勞の連続だったそうです。ひと月に幾度となく石橋社長自らが現地を訪れ、綿密な打ち合わせを重ねられたとのことでした。

取引先のニーズに柔軟に対応するというコンセプトのもと、石橋社長が内外に経営ビジョンを発信され、社員一丸となって取り組んでこられたことで盤石な基礎を築かれ、これからもあらゆる世代のファッションシーンに新しい風を吹き込んでいかれることでしょう。

同社の事業部門である「運輸事業」と「アパレル事業」は180度異なる分野ではありますが、両部門で成功を収められた背景には、相互の事業で得た知識や経験を生かし、それぞれがもつ強みを伸ばし、互いに補完することで厳しい時代を乗り越えてこられたも

当健保組合においても、高齢者医療制度への納付金や医療費の高騰により「義務的経費」が年々増加しており、現在の負担方式では現役世代に負担がますます強いられ、社会保険制度の崩壊につながりかねません。世界に誇れるわが国の医療保険制度を子どもや孫の世代にも存続させていくため、政治家の皆さまには、私たちが安心して生活できる社会の実現に向けた政策を早期に期待するところではあります。

## 「安全」と「効率」を 提供することで取引先との パートナーシップを構築

次に同社の社史についてお聞きしました。

千南商事は、昭和22年7月に設立され、当時は川崎製鉄(現JFE)が生産する鉄鋼の運搬を始められました。以来、数十年にわたる取引先との良好な関係を築きあげられました。現在は主な業務内容として、JFEスチール東日本製鉄所千葉工場で生産される鋼材・化学品・ドラム缶、および市原臨海地区の大手化学工場で製造される化成品の輸送業務を担っております。運搬する品目が多種

の私たちは感じました。

☆☆☆

最後にご自身の健康法と健保組合への要望についてお聞きしました。

石橋社長は月に数回スポーツクラブに通われ水泳などで体力維持に努められています。また、石橋常務は仕事で毎日の帰宅が遅いことや、家族サービスでふだんなかなか運動する機会がないとのことですが、ご自身の体調管理には十分気遣っていらっしゃる様子でした。

企業経営には、私たちが想像する以上に多大なる労力と精神的負担がかかると思いますので、健診等を上手にご活用いただき、健康には十分留意されますようお願いしました。

続いて健保組合への要望として、「効率的な事業を望みます」とおっしゃられました。私たちはその言葉を真摯に受け止め、加入員の方々にご満足いただけるよう、今後とも取り組んでまいります。

あつという間に予定していた取材時間を迎え、取材を終えることとなりました。石橋社長をはじめ千南商事の皆さま、ご協力ありがとうございました。